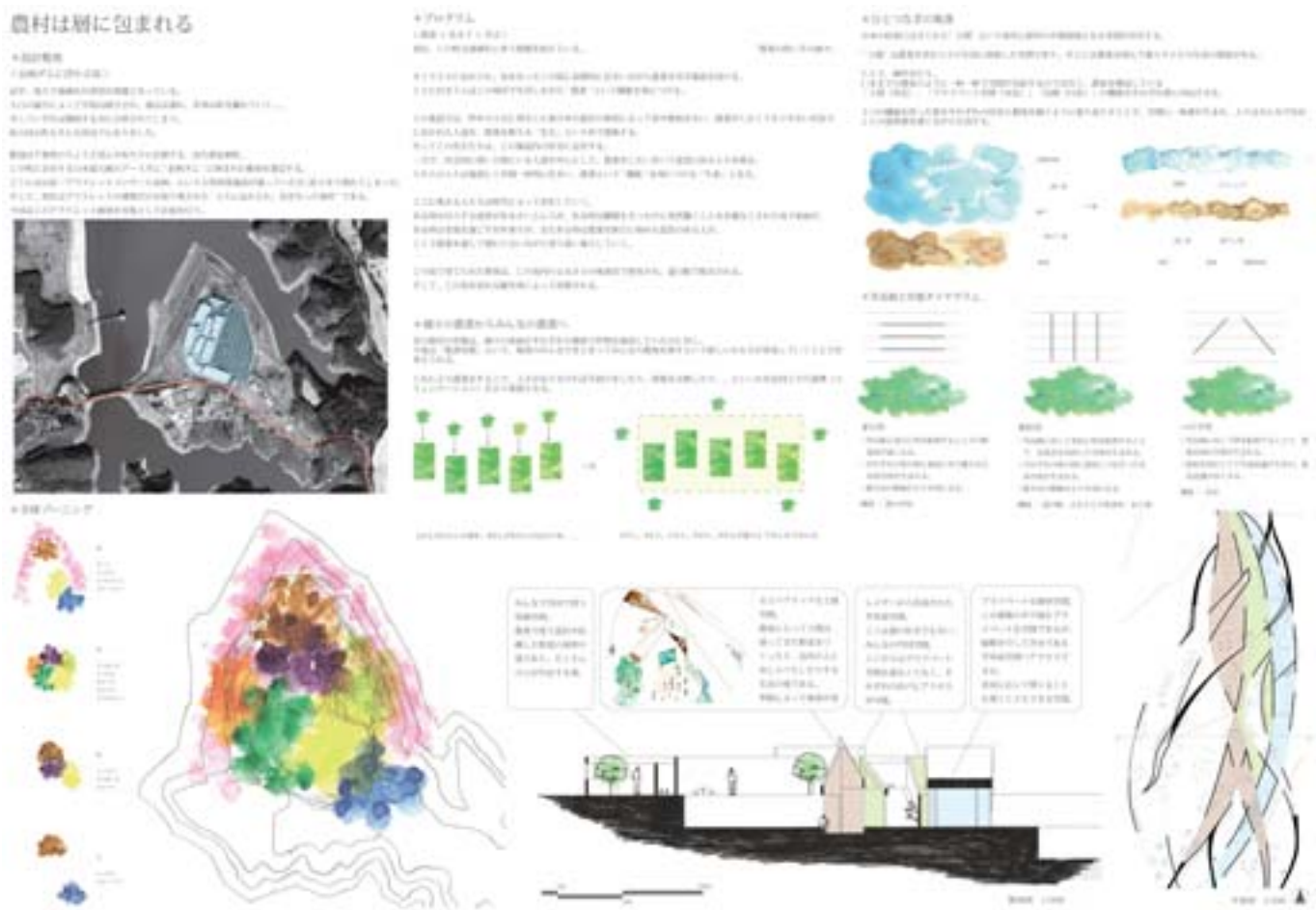
農村は層に包まれる

特別賞

白井　美里（しらい みさと）
東京電機大学　未来科学部　建築学科



過疎化の進む田舎町に、住まいながら学ぶ農業研修施設を提案する。

ここでは農業を教える先生として、震災で農地を失った人々を、そして社会的に弱い立場にいる人々や農業に興味を持っている人々を生徒としてこの敷地に呼び込む。

人々は長期的にここに住まい、共に生活していく中で農業を通して新たなコミュニティを形成していく。

従来の農家のように個々の家庭で空間が完結するのではなく、農家を構成している機能をそれぞれ壁に内包させ、農家と農地を縫うようにつないでゆくことで、空間に一体感が生まれる。

土間、プライベート空間、収納の3つの機能を持つ壁は幾重もの層を形成し、ひとつなぎの集落をつくる。

講　評

食料やエネルギーに対する人々の価値観が激変し、少なからず自給自足に向かう時代、つまり、地球自体が農村に包まれる可能性もありえる今、「農業・住まう・学ぶ」の空間によって、都市や建築の有り様に迫る提案は、とても魅力的だ。さらに、作者は千葉県の兼業農家に生まれ育っており、泥や土臭さの表現不足ではないかという指摘を一蹴する力量があった。

「色を失った土地に何を与えるか」という問いかけに、「農業に色」を与えるという提案とともに、それを美のデザインへと昇華させている。

多くの解釈が可能な詩的な側面もあり、夢が膨らむ。リアリティもある。

空間構成の文脈も良く考えられており、感覚的に配した局面壁のように見えるが、形態の根拠も明快に語られている。

作者が自然体で建築に向かっている一貫した姿勢も感じられ、作り込み過ぎず、余白があり心地良い。

今後は、この場にとどまらず、地球規模の展開を予見させる提案へと進化することを望む。

（審査委員：鳴海 雅人）